

三寒四温とは言うものの、日に日に、春は深まり、日差しにも一段と明るさが増してまいりました。この良き日に、本日、南砺市立井波中学校、第73回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、南砺市教育委員 竹部俊恵様はじめ、日頃より、本校に多大のご支援をいただいております来賓の方々、さらには、保護者の皆様方、多数のご臨席を賜り、盛大に祝っていただきますこと、誠に有り難く、感謝に絶えません。高い所からではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、62名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。ただ今、総代の手に、中学校の課程を修了したことを証明する卒業証書を授与いたしました。入学からの三年間。春に志を立て、夏に汗をかき、秋には想いをめぐらせ、冬は風雪に耐え、地道に徳を積み上げてきました。校舎の大規模改修工事が続き、ストレスを感じることもあったかと拝察しますが、皆さんは一致団結し、学習、生徒会活動、部活動等に、最高学年らしいリーダーシップを発揮しながら取り組み、井波中学校の歴史に輝かしい1ページを加えてくれました。

ここで、卒業という晴れやかな門出にあたり、私から皆さんへ、はなむけの言葉を贈りたいと思います。それは「謙虚であれ」という言葉です。謙虚とは「自分の能力・地位などにおごることなく、すなおな態度で人に接する」という意味です。

皆さんがこれから歩む道は、希望に満ちあふれていますが、人工知能が産業に革命を起こしたり、今回の感染症のような不測な事態が発生したりするなど、前例なき場面に出会うかも知れません。また、夢や願い、目標が叶ったかと思えば、失敗して立ち上がれないほど落ち込む日々遭遇するかも知れません。しかし、順調に進んでいようと逆境に立とうと、アドバイスに謙虚に耳を傾けることは、難しい課題を解く糸口となったり、自らをより成長させてくれたりするものと確信するところです。

女子サッカーの2011年ワールドカップドイツ大会で、日本チームを優勝に導いた「なでしこジャパン」の前監督、佐々木則夫さんは、次の言葉を残しています。

「成長できる人には、他人の成功や自分の失敗から何かを学ぼうとする謙虚さがあります」

人生とは判断と決断の連続ですが、いかなる時代や社会が訪れようとも、人としてあるべき姿は、大きく変わるものではありません。皆さんには、井波中学校の校訓である「自ら進んで行い、やり遂げる、自主完遂。明るくほがらかで、おおらかな、明朗闊達。飾りがなく誠実で、心身共にたくましい、質実剛健」のもとで培ってきた、生き抜く力が備わっています。周りの人に生かされていることに感謝しながら、自らの手で輝かしい未来の扉を開いて行ってください。

さて、保護者の皆様。立派に成長されたお子様を前に、さぞかしお慶びのことと存じま

す。教職員を代表いたしまして、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。中学校時代は、人生の中でも、最も多感で変化の多い三年間であります。あの頃、あの時の悩んだり、苦しんだりしたことが、今、脳裏を去来しているのではないのでしょうか。例年とは様相が異なる卒業式となりましたが、卒業生に対する私達の熱い思いが揺るぐことは、全くありません。新たなる道を進むためのご支援とご指導を、心からお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆さん。どこで生きることになろうと、母校はこの井波中学校であり心のよりどころは、家族、この仲間、地域の方々、そして、井波中学校教職員一同です。井波の素晴らしい自然、文化、人の温もりを一生忘れず、二つとない尊い命を大切にしながら、人生を力強く歩んで行ってください。

「謙虚であれ」

皆さんと出会え、共に過ごした日々感謝するとともに、卒業生の前途に幸多かれとお祈りし、式辞といたします。

令和2年3月12日

南砺市立井波中学校長 河原 秀樹